

平成 30 年度第 1 回生田原地域まちづくり会議録

- 日 時 平成 30 年 10 月 26 日（金）18 時 30 分～20 時 20 分
- 場 所 生田原総合支所第 1 会議室
- 出 席 舟木会長、杉本副会長、多賀委員、高橋委員、大柳委員、堀江委員
- 欠 席 渡部委員、由利委員、遠藤委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹、生田原総合支所 門脇支所長
- 会議内容

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長、欠席者について報告。

2 会長あいさつ

(舟木会長) 関西豪雨、胆振東部地震の被災者に対し、お悔みとお見舞い申し上げます。任期が最終年度となる。昨年の提言について、更に実現化に向けて意見交換を行う。活発でバイタリティあふれるアイデアが出されることを期待する。

3 平成 30 年度遠軽地域まちづくり会議の進め方について

4 平成 29 年度まちづくり会議の振り返り

5 平成 29 年度まちづくり会議の提言に係る町の考え方

資料 1、資料 2-1、資料 2-2、資料 3 により一括して中原主幹から説明。

(舟木会長) 大学と連携した農業労働力の確保について、9 月に試験的に実施したということだが、遠軽だけに来たのか。

(門脇支所長) 生田原の農家にも来ている。

(杉本副会長) 生田原地域まちづくり会議から発信したから実現したのか。

(門脇支所長) 前から話があり、タイミングよく実現した。

(高橋委員) 向こうの学生がたまたま違う形で来て、大学のサークルで全国各地にメンバーがいて、各地に体験の場所を持っている。去年遠軽に来て、担い手協議会もバックアップして、今年 6 人来て 2 週間ぐらいいた。若いからよく働く。期間中、休みがあったり、コスモスフェスタも手伝うはずだったが、中止になったりした。来た日に全道ブラックアウトも体験した。

(舟木会長) こうやって見ると、生田原で一番有力な提言。町とうまく連動できた。これは、ボランティアなのか。

(高橋委員) ボランティア。ただし、飛行機代とか宿泊代などの経費は全部こっち持ち。小遣いは渡していない。ただ、各地区独自で焼肉やったりとか、お別れ会を遠軽でやったりとかはあった。(実施したことは) 良かった。

(中原主幹) 来月、学園祭で遠軽産のジャガイモを販売してくれるとのことで、送ってあげるとのこと。そういったことで、上手く関係を維持して来年以降につなげたいと考えている。

(杉本副会長) 今後も継続してやっていくつもりか。

(中原主幹) 来年以降につながるようにやっている。

(杉本副会長) ぜひ、続けるといい。

(舟木会長) 試験的とはどのくらい続けるということか。2～3年やって本格的にということか。

(中原主幹) 相手は部活動のような団体で、たまたま話が合ったということ。

(杉本副会長) 大学に仕掛けていけないのか。

(高橋委員) なかなか難しいのではないか。

(杉本副会長) 授業の単位を取る一環になるといいと思う。

(高橋委員) アルバイトなど大学生も忙しい。

(中原主幹) 後は発展させるとすれば、学生が就農を目指すとか、こちらに移住するようになるよりいい。

(高橋委員) 担い手協議会が関わっているのは、新規就農とかこの地域への移住につながるというところでやっていると思う。

(杉本副会長) うちのホテルも人がいなくて困っている。外国人の研修生を受け入れたいが、ノウハウがないので町などで支援してもらえないか。

(中原主幹) 今、法律が変わったが、水産加工会社で技能研修生の受け入れ枠を拡大するのに特区制度を活用していた。紋別の事業者でやっていた特区の中に遠軽も入れてもらうような形で適用した。管理する組織があるので、そういったところとつながりができれば、ということだと思う。その時は、特区制度ということで町も関わったところ。

(杉本副会長) そろそろ真剣に考えないとベッドメイクができなくて7掛け、8掛けくらいしか受け入れられなくなる。

(舟木会長) 他に何かないか。

(高橋委員) 空き家情報を住民生活課が所管してということが書いてあったが。

(中原主幹) 空き家情報を公開するまでは行ってなくて、所管部署が決まって、状況を把握しているところ。

(高橋委員) どういうところまで展開しようとか考えているのか。たまたま、妻の実家が空き家になって、その市では適当な空き家があればあっせんしてくれるようなしくみがあった。例えば外国人技能実習生が来たときに使うだとか、町としてどのくらいのところまで考えているか。

(門脇支所長) 現実としてまだそこまで行っていない。今年度中に洗い出しをして、それからどうするかということを考える。

(高橋委員) 個人の持ち物だから、それを行政が手をかけてリフォームしたりとかそういうことは絶対ありえないだろうけども、情報として教えられれば。

(門脇支所長) 危ない物は持ち主の方にお知らせしなくちゃいけないし、木の枝が出てなどの時も言わなくちゃいけない。きっちり把握して来年度どうしていくか。今はそうい

う段階。

(中原主幹) 遠軽のまちづくり会議では、そういった空き家を町に寄付してもらい、移住・定住の受け入れに活用してはというアイデアが出ていた。実際に、うちの課の職員が東京都の奥多摩でやっている事例の視察をしてきている。空き家対策は、危険な建物を壊すなどの一面もあるが、使える建物を活用するという面もある。そういったところで深めていただくのもいい。

(杉本副会長) かなりの空き家件数があると聞いた。

(佐藤課長) 400とか500ぐらいある。

(門脇支所長) 生田原で50ぐらい。

(佐藤課長) それを全部行政でなんとかしろとなってもできない。民間の不動産業者もいるので調整しないとならない。

(舟木会長) 今はけっこう解体する人が多い。

(高橋委員) 実際、解体しようとする时无茶苦茶お金がかかる。坪3~4万ぐらい。それだったら、ただでもいいからもらってくれる人がいれば、そっちの方が絶対いい。

(多賀委員) うちの自治会では、売りに出していた家が買い手が付いて、リフォームして別荘として使っている。

(舟木会長) 生田原以外の提言で何かあれば。

(中原主幹) 遠軽のまちづくり会議で生田原の放送設備が壊れたまま放置されているということについて、先月の地震の時に伝達方法が・・・という話もあったので、防災について皆さん関心があると思う。遠軽も街なかに千人踊りをやる時の街頭放送設備があつて、電源が落ちていたら発電機とか考えなくてはならないが、断水のデマなどを打ち消すにも広報は大事なので、そういったことに活用できないかという話があつた。生田原のものは使えるのか。

(舟木会長) 生田原の場合は、5つのスピーカーがあつて、火事があつたらサイレンが鳴って消防団の召集の合図になっていた。

(中原主幹) アナウンスも流すことができるのか。

(舟木会長) できる。

(大柳委員) 有線組合の電柱を利用していた。有線組合の電柱が全部なくなった時点で、全部撤去されてしまった。電柱共架して付けなくてはならないが、機材も古くて老朽化して使えないということで、そのままになっている。3.11以降防災無線って騒がれているが、遠軽町は「生田原地域にしかないから外せ」と言われて、全部取ってしまった。安国もそういう状態。機材も配線もだめでどうしようもない。お年寄りも、メールも何も使えないから、知らせしてくれる術がない。そしたら、防災無線が一番活用できるのではないか。消防もサイレンが聞こえないよと、「愛の鐘」がなくなる時点で無線を付けようとしたが、経費がかかるということで断念した。あれば本当にいいと思う。たしか、安平かどこかで家庭で聞ける防災無線があるようだが。

(門脇支所長) 防災無線を全戸に付けたらと試算したことがあるがすごい金額になった。
(舟木会長) 町では何か災害があれば、役場ですぐ広報するからということですか。と
なっている。それがどういう形かというところとわからない。車を出すしかない。

(中原主幹) この間は、私も朝7時から広報車で回った。

(佐藤課長) それしかなかった。

(中原主幹) 簡単に直せるものではないと、遠軽ではコミュニティラジオ局という提案も
あって、一つの側面として防災に役立つ。

(大柳委員) 経費が掛かると言っても何とかしないと。それは行政だと思う。お金が掛か
るから放って置こうということにならない。これから重大なことになってくる。

(杉本副会長) 民間でできることと、行政でやらないとしないことがある。

(大柳委員) 各地で防災無線が復活してきている中で、遠軽町は「外せ」って言う、流れ
に逆行している。高齢化して公共交通も不便になってきて、お年寄りにはメールも使えな
い。その中で防災無線だと思う。

(堀江委員) ご近所も希薄になってきているから、なかなか隣のおばあちゃんに教えに行
くというのもない。大事なところに税金を使ってもらいたい。

(佐藤課長) 限られた財源なので何を優先するか、その中で有効なところを考えなくては
ならない。

(中原主幹) 単純な防災無線だと厳しいかもしれないが、遠軽の提言のように普段は町の
情報を伝えるようなものだと価値が高い。行政ではラジオ放送はできないので、町の人
が有志でやってもらえれば、ということにしている。

(大柳委員) 安平は、どういうものか。役場の中に放送局がある。そういう小さいもので
もいい。

(佐藤課長) 調べてみる。

(堀江委員) 遠軽町の財政はどうなのか。

(佐藤課長) 決して裕福ではないが、それほど悪くはなくなっている。

(杉本副会長) ごみ処理場だとか、色んなお金を使っているが、ある程度大丈夫か。これ
から町民センターも作る。

(佐藤課長) 合併特例債という有利な借金があり、それを活用して進めていく。その辺は
気にしなくてもよい。

(中原主幹) 合併した時で確か町の基金と言って貯金みたいなものが30億ぐらい。今は
90億円ぐらいになっている。どうしてかというところ、合併特例債で基金を積み増してい
ることと、地方交付税が合併して10年間は4つの町分がもらえる。10年過ぎた段階
で、段階的に減っていくので、増えたけど、この先安心だよということではない。

(堀江委員) ふるさと納税でお金は入って来ているのか。

(中原主幹) 入って来ている。

(堀江委員) 返礼品はどんなものか。

(中原主幹) アスパラとかジャガイモが人気がある。あとはマイスターの化粧品とか、安彦さんのバスタオル。

(杉本副会長) うちのうどんも採用されている。

(佐藤課長) うちの3千万くらい。

(杉本委員) 高原和牛があったらすごかっただろう。白滝のを見ていて、モノを買うところがなくなるとか、すごいことだなと思う。

(舟木会長) 他人ごとではない。

(大柳委員) お店のことでいうと、滝上だったか、西興部だったかでやっていた。あれは第3セクターだったか。

(中原主幹) 公設民営だったと思う。お店は補助金、お店の人間はたぶん民間。

(大柳委員) どこかスタンドもあった。

(高橋委員) お店も利用がなくなれば、やりたい人はいるだろうが、赤字だとできない。

(中原主幹) 守るとなると、地元の人がどれだけ使ってくれるかということになる。

(杉本副会長) それが高橋で買いに行く。一番困るのはお年寄り。コンビニもホテルがなくなったら、厳しくなる。合宿なんかあったらすごい。

(中原主幹) 白滝は人口が6百数十人、それで一軒の店を維持するのは厳しいというのが現実だとなった。

(大柳委員) 生田原地域も今、千2百人くらい。安国が6百くらい。

(門脇支所長) 全体で1,750くらい。

(杉本副会長) 安国にコンビニがあるが、利用者は町民でなく道路を走る人。白滝はそういう状況じゃないから難しい。

(中原主幹) 地元でお店を持つなら皆で使うようにしなくては、という話にはなっていた。

(杉本副会長) セイコーマートは小さなところで出店している例がある。地元の熱意しかない。従業員がいるかということから始まる。

(舟木会長) この地域も5年先を考えたらさびしいものがある。他人ごとではない。

(大柳委員) 1,200人くらいで店を支えて行かなくてはならないと考えると大変。

(佐藤課長) 遠軽町全体で2万人を切るのが来月あたりにはとなっている。

(杉本副会長) 高校生も地元の仕事がいっぱいあれば残れるだろうが、残れるのは一部しかない。

(大柳委員) うちの周りでもお年寄り2人が旭川に出て行ってしまった。家も全部壊していった。貰い手を探したがいなかった。

(佐藤課長) 若い人の転出より高齢者の転出が多くなっている。やはり病院などの問題がある。

(舟木会長) ブラックアウトも冬だったら恐ろしい。

(大柳委員) その時の対策を誰もやっていない。

(佐藤課長) 役場でも冬場に停電になった時の対応を考えて予算を上げるように検討し

ている。

(杉本副会長) 町は発電機をたくさん持っているのか。

(佐藤課長) 全然足りていない。

(杉本副会長) 今回は発電機を貸してもらい、冷蔵庫や廊下の明かりは確保できて大変助かった。

6 次期まちづくり会議への申し送り事項について

- ブラックアウト対策
- 災害時の広報対策
- 商店、JR、バスの維持

7 その他

全体会議では、遠藤委員が発表する。

8 閉会

佐藤企画課長

20:20 終了